当協会の前会長で、県教育委員会社会教育課長等を歴任された高橋寛氏より、これまでの本県社会教育のあゆみについて、シリーズで振り返っていただきます。今号が、第1回です。

寄稿　岩手の生涯学習物語　（草創期編）

元岩手県教育委員会社会教育課長　高橋　寛

第一話「生涯教育提唱は岩手が世界初」の巻

「生涯教育の提唱は岩手が世界で最初です」と言ったら、皆さん驚かれますか？
でも、それが本当なんです。今日はそのお話です。

教育振興基本計画

昭和36年のこと、文部省が全国一斉中学校学力調査を実施いたしました。岩手は最下位グループでした。予想されていたこととは言え、大きなショックでした。

この時、教育関係者は起ち上がったのです。当時の教育長工藤巌先生の指揮のもと、教育水準を10カ年で全国レベルに引き上げようと「教育振興基本計画」（10カ年計画）が作成されたのです。

この計画は、まず、教育諸条件を全国と比較するとともに、 県民の生活水準も比較し、その民力の把握のもとに、何をどう引き上げるか、その指標をつくり、その実現策を10カ年計画としてまとめたものでした。

その経費36億円8千万円余り、県議会の承認を得たまさに巨大プロジェクトでした。しかも、全国で初めての計画でした。

生涯にわたる教育編成

この教育基本計画において、社会教育部門も種々振興計画を述べておりますが、最後に、「社会教育の今日的位置、役割を達成するためには、いわゆるゆりかごから墓場までの生涯にわたる教育編成が充実強化されなければならない」と明言し、その構想を次の表に纏めたのです。（右表参照）

皆さん、如何ですか。この指摘こそ岩手が生涯教育を志向した最初の出来事なのです。

生涯教育は岩手が世界初

しかも、この教育振興基本計画が公に発表されたのが昭和39年です。
フランスのポール・ラングランが生涯教育を提唱したのが昭和40年、僅か１年とは言え岩手はそれを先回っているのです。

それに、この基本計画が作成されたのは昭和38年、それ以前から生涯教育構想は生まれていたのですから、「生涯教育は岩手が世界初」と言っても過言ではないでしょう。

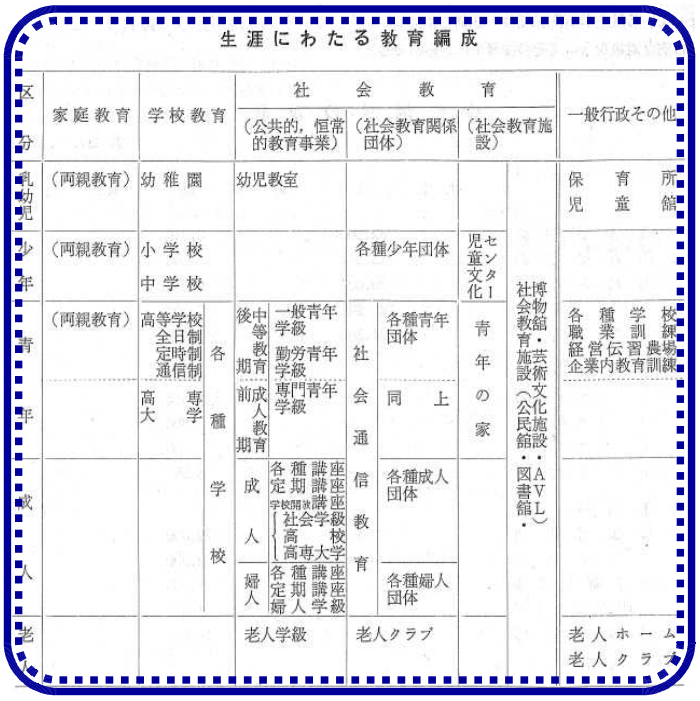
源流は岩手の社会教育

このことを、私は執筆された荻原芳先生（元社会教育課長、県立図書館長）から直接お聞きしています。先生はこう申されました。

「今思えば、確かに世界初といえるかもしれません。ただ、この考え方は突然生まれたものではなく、岩手の社会教育実践の当然の帰結なのです」と。

この荻原先生の指摘「当然の帰結」とは、一体どんなことなのでしょうか。それは次号と致します。

なにはさておいても、生涯教育は岩手が世界初ということは誇らしいことではないでしょうか。たとえ、「生涯教育」という用語が使われていなかったにしろです。



生涯にわたる教育編成

区分	家庭教育	学校教育	社会教育（公共的，恒常的教育事業）	社会教育（社会教育関係団体）	社会教育（社会教育施設）		一般行政その他
乳幼児	（両親教育）	幼稚園	幼児教室			博物館・芸術文化施設・社会教育施設（公民館・図書館・AVL）	保育所 児童館
少年	（両親教育）	小学校 中学校		各種少年団体	児童センター 文化1		
青年	（両親教育）	高等学校 全日制 定時制 通信制 高専 大学 各種学校	後期中等教育：一般青年学級、勤労青年学級 前期成人教育：専門青年学級	社会通信教育：各種青年団体	青年の家		各種学校 職業訓練 経営伝習農場 企業内教育訓練
成人			各種講座 定期講座 講座 学級 学校開放 社会学級 高校 高専大学 成人	同上			
			各種講座 定期講座 婦人学級 婦人	各種成人団体 各種婦人団体			
老			老人学級	老人クラブ			老人ホーム 老人クラブ

※昭和39年3月発行　岩手県教育基本計画より